

## 画論2013 The Best Image 参加報告記

国立大学法人北海道大学病院 笹木 工

「久しぶりの東京だ」

10月上旬に画論 The Best Image事務局より上位入賞の知らせをいただいた。「ONEを使っているからには、いつかは心大血管部門で入賞したい」と思っていたこともあり、参加できることがうれしかった。近年は事務局より「残念mail」ばかりいただき、表彰式に出席できない年がつづいていた。今年は違う。そう、表彰式に出席できるのだ！

応募の際には使用装置でなければできない検査ということを第一に考える。今回は特にその思いが強かった。最大160mmの撮影範囲、1回転0.275秒という性能を持った装置でしかできないこと。さらには当院の環境において心臓CTに非常に興味を持っている放射線科医と循環器内科医の存在なくしては出せない症例であったためである。今回応募した症例は負荷心筋CT Perfusionであった。薬剤負荷にて心拍数を上げて一定時間撮影を行い、薬効がなくなるのを確認後にもう一度撮影を行う心臓全体を含むdynamic studyである。虚血性心疾患に対して機能的評価と形態学的評価を一度に行える検査方法である。

会場には着席する場所が決められており、資料とあわせてCT部門全応募症例が小冊子になって置いてある。心大血管部門を眺めていると「おっ！これは?!」と目にとまった症例が2つあった。どれどれ、応募施設は… やはりである。心大血管部門と言えば北海道社会保険病院である。発想法、画像処理、臨床的有用性、どの観点から考察しても非常に優れていた。着席してから5分も経たず、表彰式に出席ではなく単に参加しただけの気分になった。結果は予想通りONE心大血管部門の最優秀賞とテクニカル賞を北海道社会保険病院が独占した。さすがです。参りました。本当におめでとうございます！！

久しぶりの東京であったが出席するたびに修行の足りなさを実感する画論でした。というわけで、うなだれた私と受賞したお二人と記念写真を撮りました。



最優秀賞を受賞された高橋さん（中央）とテクニカル賞を受賞された森田さん（画面左）

追伸

復路の航空機は使用機到着遅れのため25分遅れて出発したが無事に千歳に着陸した。関係者一同「やはりあの人がいないとちゃんと飛びますね～ 帰ってこられた」と口々に言い合っていたことを併せて報告いたします。

注) 「あの人」のことは遠友ser会メルマガ創刊号の編集後記をご覧ください。